

令和4年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会  
議事概要

1. 日 時：令和5年3月23日（木）13：30～15：30
2. 場 所：ニュー阿寒ホテル 3F 会議室「花鳥風月」
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

○北海道環境生活部自然環境局 高橋局長より挨拶

■議題

(1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025の進捗状況について

(2022年度の取り組み)

○環境省（阿寒摩周国立公園管理事務所 田中所長）から資料1-1、1-2に基づき説明

- ・これまでの取組で結果が目に見えてきたもの、これから取組が本格化していくものの進捗状況を紹介する。
- ・環境省直轄施設利用状況ですが、阿寒湖畔エコミュージアムセンターでは多言語対応、川湯ビジターセンターではカフェの設置やトイレ増設、デッキの改修など、和琴フィールドハウスでは、環境省、北海道、弟子屈町とRecampと協定を結んで3つの野営場の共同運営を行ってきた。
- ・コロナの影響で利用が落ち込んでいたが、阿寒湖畔エコミュージアムセンターと川湯ビジターセンターは、コロナ前と比較すると8割程度利用者が戻ってきた。和琴フィールドハウスは、コロナ前より増加している状況となっている。
- ・リニューアルされた施設の利用状況は、オンネトー野営場では過去7年平均と比較して116%の増、摩周湖カムイテラスも増加していて、振興公社の話によれば滞在時間が伸びていることが確認されているとのこと。美幌峠展望台では22年度は見込みではあるが、87万人となり19年度と比較し大きな増加が見受けられる。
- ・イベントの来場者数は、カムイルミナは19年の開始時と比べ、1日あたりの来場者数でいうと60%まで回復してきた。川湯の森ナイトミュージアムは1日あたりの来場者数はそれほど変わらない。資料から利用者はコロナ前と比較して回復傾向にあり、満喫プロジェクトで改修等したところは利用者が増加していることがわかる。
- ・満喫プロジェクトの7つの目標値については、基本的にはコロナの影響を受け、目標値に到達したものはほとんどなく、訪日外国人の国別割合は、コロナの影響でアジアからの訪問が少なかったことで、逆に欧米豪比率としては上がっているもの。目標値

をクリアするには更なる取組が必要と感じている。

○足寄町（商工観光振興室 門野主査）から資料に基づき説明

- ・オンネトー野営場休憩舎は昨年6月にオープンした。約9千人の利用者があった。隣接する野営場についてもコロナの影響や雌阿寒岳の噴火警戒レベルが上がったが過去に比べて利用者は増加しており、また、道外の方も多く利用されている。
- ・休憩舎はゼロカーボンパークという意味においては、情報発信や普及啓発の施設であり、薪ストーブは風倒木や枯損木を使用するなど重要な施設。また、久しぶりに開催されたウッドキャンドルナイトは、森林資源を活用した冬期観光イベントで、町の基幹産業である林業への理解向上を図るとともに、ゼロカーボンパークの普及啓発にも繋がるもの。

○国土交通省北海道運輸局（観光部 水口部長）から資料に基づき説明

- ・ロングトレイル活用ガイドラインは、トレイルを活用して旅行者に来ていただくためにはどうしたらよいかを考え、ただ歩くだけで終わるのではなく、アクティビティで繋がるのが重要であり、そこを引き出すための考えをまとめたもの。実際に関係者や有識者と歩いてみて、旅行会社やガイド関係者等のトレイルを活用してお客様をお迎えする側の連携が必要と感じており、そこを繋いでいきたいと思っている。
- ・本ガイドラインは完成版ではなく、活用する人が増えてくれば増えたなりのガイドラインが必要と考えていて、ロングトレイルとしてのクオリティを維持するための、一定の基準を維持し、さらに更新する作業を地元に関わる皆様と一緒に考えて行きたい。

○弟子屈町（商工観光課 秋山課長）から資料に基づき説明

- ・摩周湖カムイテラスは昨年7月に完成した。摩周湖の多様な表情をゆっくり見ていただくことをコンセプトにしている。柵をガラス張りにし景観に配慮するとともに、夜の星空観察にも適したベンチとするなど、利用者の視点で改修を行った。周辺アクティビティの促進については、レストハウスでの摩周第3展望台までの自転車の貸し出しや冬はスノーシューの貸し出しを行うなど、利用者の増加や滞在時間の伸びに繋がった。
- ・自然公園財団が管理する駐車場ではステップアッププログラムに基づき町民に対し5月と8月を除いて駐車場の無料化を行った。令和5年度については、硫黄山レストハウスの改修を予定している。
- ・川湯温泉の再整備は、現在、「阿寒摩周国立公園弟子屈町川湯温泉街まちづくりマスタープラン」を策定中で、開発の方向性や再整備エリアの検討を行っている。先日、町民説明会を開催した。内容についてはYouTubeで発信しているので、時間があればご覧になっていただきたい。

○議題（１）について出席者からの質問等はなし

## （２）ロングトレイルに関する令和５年度の取組について

○環境省（阿寒摩周国立公園管理事務所 田中所長）から資料１－３に基づき説明

- ・ステップアッププログラムに基づく「トレイルネットワーク構想」として当初は３空港を結ぶ構想であったが、有識者等の意見を聞き、３国立公園を結んだ方が歩く人から見ると魅力的ではないかということで、環境省としては今年度から取組を開始している。
- ・今年度は想定されるルートの中線踏査や関係市町村への説明等を実施した。その一環として２月４日に運輸局と連携してシンポジウムを開催し、ヨルダン大使を招聘して講演も行われたところ。
- ・来年度は大変重要な年と認識していて、管理運営組織を設立し、管理運営体制の構築やトレイルセンター機能の設置を進め、ルートを確定したいと考えている。令和６年度に全線開通を目指し取り組んでいきたい。

○議題（２）について出席者からの質問等はなし

## （３）話題提供

○ATWS 2023 北海道／日本（ATWS 2023）について

北海道釧路総合振興局（商工労働観光課 後藤課長）から資料に基づき説明

- ・2021年9月にATWSが北海道でバーチャル開催され、北海道の魅力を発信し、国内外から高い評価を受けたこともあり、ATWS 2023 北海道／日本が開催されることとなった。
- ・ATWSの概要は資料のとおり。9月11日から14日まで札幌コンベンションセンターで開催され、その前後に行われるモデルツアー体験ではプレサミットアドベンチャー、ポストサミットアドベンチャーが行われる予定。
- ・昨年はスイスで開催されたATWS 2022への視察を行い北海道のPRを行ったほか、ATTAの北海道視察に同行し、より具体的な打合せを行うことで準備をより機動的に進めるために、実行委員会事務局内にワーキンググループを設置、組織の枠を超えて活発な議論と作業を行っている。
- ・大会に協賛していただけるスポンサーを募集しており、まだ確定している企業はないが、道内企業を中心に複数の企業に前向きに検討をいただいている。
- ・道では、アドベンチャートラベルに対応した新たなガイド制度の創設に向けて準備を進めている。資料は道民から意見を募集すべくパブリックコメントを募集した際の資料。国際的にも評価され、誘客効果の高い、稼げるガイド制度とすべく、新たなガイドの認証制度を2023年から試行開始できるよう進めている。

○阿寒摩周国立公園指定90周年について

環境省（阿寒摩周国立公園管理事務所 田中所長）から資料に基づき説明

- ・これまでに阿寒摩周国立公園で行われてきた周年行事のテーマを見ていくと「魅力の発信や地域振興などのテーマが、現在進められている満喫プロジェクトに近づいてきている流れがある。満喫プロジェクトステップアッププログラムの目標年度は2025年なので1年前に90周年を迎えるが、25年に向けてどう取組を進めるのか、さらに先の100周年に向けてはどのような姿を目指すのかを考えるいい機会となる。

**(4) 意見交換**

○弟子屈町（徳永町長）

- ・先ほど話しのあった3国立公園を結ぶロングトレイルにつきましては町としても真剣に取り組んでいきたいと考えている。
- ・先日、環境省と（株）星野リゾートの間で、阿寒摩周国立公園川湯温泉廃屋撤去跡地における宿舎実施の協定を締結させていただいた。町としても協力をしながら支援をし、よりよい温泉街を創っていきたい。川湯温泉のまちづくりマスタープランは、しっかりとした観光地温泉街の姿を町民の皆様と力を合わせながら進めていく。
- ・今後も関係する11市町の協力のもと、90周年の事業と合わせて取組を進めていくのでよろしく願います。

○足寄町（渡辺町長）

- ・当町では、昨年、オンネトー野営場休憩舎（UPIオンネトー）を建築し、多くの人に来ていただきオンネトーの新たな魅力をつくれたと感じている。令和5年度以降もUPIを拠点に登山やキャンプ、ワークショップなど、これまでと違うスタイルでオンネトーの魅力を感じていただける取組を進めていく。
- ・併せてオンネトー周辺の施設整備では、これまで北海道の展望デッキ、森林管理署には雌阿寒岳歩道の看板などを整備していただき、また、令和5年度も雌阿寒温泉の公衆トイレ浄化槽の改修、展望デッキ駐車場の改良などが予定されており、関係機関の協力により整備が進んでいることに感謝。
- ・当町の国立公園としての区域はオンネトー周辺に限られ少ないが、町全体としては、市街地でのイベントの取組と国立公園での取組をどう繋げ、阿寒の魅力を伝えていけばいいのか模索しながら進めていきたい。

○清里町（楢引町長）

- ・神の子池については、公園名称変更時に公園区域に編入され、現在は裏摩周から神の子池までのトレイルを整備しながらツアープログラムを組んでいるところ。
- ・裏摩周から西別・摩周岳、第一展望台へ繋がる摩周外輪山のトレイルの整備に向けた

事前調査を進めていただきたい。

- ・3 国立公園を繋ぐロングトレイル構想は東北海道を繋ぐ壮大な計画であり、地域全体と積極的に関わっていききたい。今般の知床国立公園の公園計画の見直しでは斜里岳を含めるとの構想もあると聞いており、また、当町では早くからフットパス的なトレイルも存在しているので、これらとロングトレイルが連動し、地域と密着した取組になるよう期待する。

#### ○津別町（佐藤町長）

- ・過去に当町を訪れる観光客は何処から来ているのか大学の協力を得て調査したことがあり、結果は8割程度が釧路方面から来ており、その後知床方面へ向かっていることがわかった。この間を歩いて観光するという発想はなかったが、ロングトレイル構想は、まさしく釧路市から知床半島までを結ぶ壮大な計画であり、エコツーリズムや地域振興という点でも有意義なものとなる。当町では総合計画に基づきエコツーリズムを推進するための予算を確保している。関係機関の皆様に協力をいただきながら取り組んでいきたい。
- ・町有施設の津別峠展望台からは雲海を見下ろすことができることから徐々に観光客も増えてきており、また、大学の協力を得て雲海予測の研究も始めた。今後、観光客の増加に伴い、駐車場やテラスの改修などの財源確保のためにも国立公園に編入していただければありがたい。

#### ○標茶町（牛崎副町長）

- ・当町は、西別岳周辺が国立公園に含まれており、主に登山を目的とした利用者が、コロナ禍にあっても年間約3,500人程度が訪れている。これまで、登山道や山小屋の維持管理、高山植物の保護や外来植物の駆除など環境保全にも努めてきた。
- ・当町は、東西南北それぞれが約60kmあり、湿原エリア、酪農エリア、山岳エリアの一部として西別岳がある。3 国立公園と町を繋ぐロングトレイル構想が実現すると国内だけではなく、世界中から注目される観光資源になると大いに期待している。プロジェクトに参画されている皆様のお力添えをいただき、当町としても出来ることを着実に進めていきたい。

#### ○全体を通じて質問等

（質疑 阿寒摩周国立公園管理事務所 田中所長）

- ・ATWS2023のプレサミットアドベンチャー、ポストサミットアドベンチャーについて、阿寒摩周国立公園内や関係市町村で、ツアーが行われる予定があるならば教えてほしい。

（回答 国土交通省北海道運輸局観光部 水口部長）

- ・プレサミットアドベンチャーは、サミット前日までに行われ、4泊程度の任意参加に

なっており、道外も含め22コースで準備が進められている。任意参加のほかにATAとの契約で、現在、招待者の選考を行っている。130の枠に対して330ぐらいの応募が来ている。

- ポストサミットアドベンチャーについては、道庁がメインで行っていて釧路でも行われる予定と聞いている。サミット終了後の15日から18日の4日間の日程で、釧路、十勝（帯広）、上川（旭川）、宗谷（稚内）の4地区で計画が進められていて、現在、令和5年度の運営事業者の募集をしていて、これからツアー内容が詰められていく状況。

#### ■ 閉会

○ 釧路自然環境事務所阿寒摩周国立公園管理事務所 田中所長より挨拶